

**“超”を目指す軸受技術研究会**（第3種，主査 森 淳暢）：

本研究会は，軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者，気軽になんとなく参加してみたい者が集っているいろいろな意味での“超”を議論し，情報を交換する場として運営されている．本年度は，委員数 31 名，平均出席者数は 20 名程度で，関西大学を開催場所とし，3 回の研究会を開催した．研究会での講演タイトルは以下のとおりである．

第 19 回研究会（平成 18 年 6 月 17 日 於：関西大学） ①超低トルク円すいころ軸受の開発（ジェイテクト 松山博樹，戸田一寿，荻野清，大島宏之，上村篤司，瀧井裕一），②ティールティングパッドジャーナル軸受内の膜流れとキャビティ流れの相互作用に関する研究（舞鶴高専 野間正泰，松村太郎，関西大 森淳暢），③滑り軸受の最適設計（東海大 橋本巨）．

第 20 回研究会（平成 18 年 10 月 7 日 於：関西大学） ①超精密位置決め用空気圧サーボ軸受アクチュエータ（ピー・エス・シー 佐々木勝美），②案内軸受油槽装置の軸受損失低減への実験と隘路事項（放送大 松尾昌憲），③多重巻き気体潤滑フォイル軸受の作動特性のシミュレーション解析（大阪電通大 矢部寛）．

第 21 回研究会（平成 18 年 12 月 16 日 於：関西大学） ①エンジン軸受の質量保存弾性流体潤滑（大阪電通大 小笹俊博），②X 線 CT 装置と液体金属軸受 X 線管の開発（東芝 服部仁志，吉井保夫，福島春信），③振れ精度の観点から見たスパイラル溝軸受の最適設計（龍谷大学 山口奈緒美，同志社大学 平山朋子，スピンドルデバイス研究所 菱田典明，大阪電通大 矢部寛）．

研究会終了後には，話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており，毎度，ざっくばらんな意見交換がなされている．次年度も軸受技術に関わる話題を基とし，年 3～4 回の研究会の開催を予定している．

URL: <http://web.maizuru-ct.ac.jp/control/noma/trib/tribology.html>